

北見工業大学学報

第 237 号 (2010 年 1 月号)

目 次

年 頭 挨 拶	平成 22 年学長年頭挨拶……………	2
入 試	平成 22 年度推薦入試の実施……………	3
	平成 22 年度大学入試センター試験の実施……………	3
研 究 助 成	平成 21 年度共同研究の受入状況……………	4
	平成 21 年度受託研究の受入状況……………	4
	平成 21 年度奨学寄附金受入状況……………	4
	(財)スズキ財団 平成 21 年度科学技術研究助成 交付内定……………	4
諸 報	事務局職員等職階別スキルアップ研修……………	5
	平成 21 年度第 2 回地域共同研究センター 産学官連携推進員・協力員 合同会議を雄武町で開催……………	6
	ウィンターサイエンスキャンプ「雪と氷の世界を体験しよう」を実施……………	7
	知的財産セミナーを開催……………	9
	薬物乱用防止講演会を開催……………	10
	個人情報保護研修を開催……………	11
日 誌	12 月・1 月……………	12

= 年頭挨拶 =

平成 22 年度 学長年頭挨拶

新年明けましておめでとうございます。

年末年始の休暇を皆様いかがお過ごしだったでしょうか。

私は例年どおり元旦の昼前に初もうでに行きましたが、すばらしい快晴で北見神社の参拝客の列は境外まで長く続いており、昨年の2倍近い1万人とのことでした。好天気の影響だけではなく、景気が少しでも上向くことを願った方が繰り出したのではないのでしょうか。

2日と3日はあいにくの雪模様でしたが、仕事始めの本日4日はまた快晴で、すがすがしい気持ちで、新年交礼会に臨めました。

昨年を振り返ってみますと、アメリカでは1月に「チェンジ」をスローガンとしたオバマ大統領が誕生し、我が国では8月の総選挙で「政権交代」を掲げた民主党が大勝し新内閣が発足するなど、政治面で変革の続いた1年でありました。

また、世界的流行となった新型インフルエンザの発生があり、本学でも学生や若手の教職員が感染するなど、その脅威にさらされました。これから大学入学試験の時期を迎えますが、本学では罹患者を対象に個別学力検査の追試験を行いますので、受験生の皆さんには安心して勉強に励んでもらいたいと思っています。

例年ですと、この新年交礼会で年末に内示された次年度の概算要求の結果について教職員の皆様方にご報告をしておりましたが、国の予算編成作業が遅れており、本日には間に合いませんでした。

今年は、国立大学法人が第二期中期目標・中期計画期間に入る年であり、また、本学が創立50周年を迎える年でもあります。

創立50周年記念事業として、6月の記念式典、9月の国際ワークショップのほか、記念講演の開催や記念誌の発行も計画しています。

加えて、新年度からは大学院博士後期課程に医療工学専攻を新設します。高度なレベルで医療工学を研究する環境を整え、地域の医師会など医療関係者とのますますの交流を図りながら、医学系の大学や研究機関、企業と連携し、地域医療の充実に少しでも多く貢献できればと考えております。

このような大きな節目の年にあたり、本学が更なる躍進を遂げられるよう、教職員一丸となって取り組んでいきたいと思っております。

最後に、皆様のご健勝を祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。

平成 22 年 1 月 4 日 学長 鮎田 耕一



= 入試 =

平成 22 年度推薦入試の実施

(入 試 課)

平成 22 年度推薦入学試験は、小論文及び面接試験が 12 月 4 日(金)に実施され、12 月 16 日(水)に合格発表が行われました。

系列別の合格者等については下表のとおりです。

系・学科名		募集人員	志 願 者	合 格 者
機 械 ・ 社 会 環 境 系	機 械 工 学 科	40	83	45
	社 会 環 境 工 学 科			
情 報 電 気 エ レ ク ト ロ ニ ッ ク ス 系	電 気 電 子 工 学 科	35	67	38
	情 報 シ ス テ ム 工 学 科			
バ イ オ 環 境 ・ マ テ リ ア ル 系	バ イ オ 環 境 化 学 科	28	37	29
	マ テ リ ア ル 工 学 科			
計		103	187	112

平成 22 年度大学入試センター試験の実施

(入 試 課)

平成 22 年度大学入試センター試験が、1 月 16 日(土)、17 日(日)の両日実施されました。

本学会場の志願者は昨年度より 24 人増の 748 人となりました。



= 研究助成 =

平成21年度共同研究の受入状況

平成22年1月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民 間 機 関 等
バイオ環境化学科	准教授	岡崎 文保	新規酸化物形燃料電池用電極材料の表面電子構造及び電極反応解析	(独)物質・材料研究機構
機械工学科	准教授	鈴木 聡一郎	日本人の骨格に適合したスキーブーツ設計に関する研究	隆祥産業(株)
社会環境工学科	教授	鈴木 輝之	アンカーピンの凍上対策に関する研究	(株)菅野組
電気電子工学科	准教授	熊耳 浩	多次元バーコード読み取り機能の実装	北見情報技術(株)
地域共同研究センター	教授	有田 敏彦	着雪がいのフラッシュオーバー・メカニズムと耐電圧試験法の検討	(財)電力中央研究所

平成21年度累計78件

平成21年度受託研究の受入状況

平成22年1月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究担当者	研究題目及び研究期間	委 託 機 関	所要経費(円)
地域共同研究センター	特任教授	多田 旭男	イノベーション推進事業/エコイノベーション推進事業/メタン直接改質技術による活力ある低炭素地域社会の広域構築	独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構	30,028,000
マテリアル工学科	准教授	伊藤 英信	産業機械、橋梁・鉄鋼構造物を対象とした複合ワイヤ溶射法による粒子分散型金属基複合皮膜作製技術の開発	財団法人北見工業技術センター運営協会	695,748
社会環境工学科	教授	中山 恵介	航路・水路域における概念モデルの定量化に関する整理解析	財団法人港湾空間高度化環境研究センター	1,999,800
社会環境工学科	准教授	永禮 英明	セルロース系バイオマス糖化・発酵過程における窒素・リン回収技術の確立	独立行政法人科学技術振興機構分任契約担当者イノベーション推進本部	650,000
社会環境工学科	教授	中山 恵介	超濁度水発生機構の解明と防止に向けた現地試験および現場での採泥分析を用いた土砂輸送に関する研究	網走開発建設部	888,000
電気電子工学科	准教授	武山 真弓	3Dインテグレーションに適用可能なバリヤ材料の低温プロセス化の検討	独立行政法人科学技術振興機構分任契約担当者イノベーション推進本部	2,500,000

平成21年度累計 24件

平成21年度奨学寄附金受入状況

平成22年1月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研 究 者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額(円)
国際交流センター	教授	山岸 喬	教育研究助成のため	(株)カイゲン	700,000
社会環境工学科	教授	大島 俊之	合板材料の強度試験に関する研究のため	丸玉産業(株)	96,000
社会環境工学科	准教授	高橋 清	工学研究のため	(株)開発調査研究所	300,000
バイオ環境化学科	准教授	佐藤 利次	医用工学研究のため	北見医工連携研究会	200,000
社会環境工学科	准教授	高橋 清	工学研究のため	(株)ドーコン	300,000
	学長	鮎田 耕一	研究者、研究生の交流支援 (若手研究者の国際会議参加旅費の助成)	北見工業大学後援会	150,000
社会環境工学科	教授	中山 恵介	研究活動支援のため	水文・水資源学会	150,000
機械工学科	教授	柴野 純一	教育研究助成のため	ほうせいメディカル(有)	300,000
	学長	鮎田 耕一	創立50周年記念事業の助成 (創立50周年記念事業のための積立金)	北見工業大学後援会	2,500,000
社会環境工学科	教授	中山 恵介	釧路川における塩水遡上に関する研究遂行のため	(株)福田水文センター	500,000

平成21年度累計 65件

(財) 岩谷直治記念財団 第36回 (平成21年度) 科学技術研究助成 交付決定

(研究協力課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交 付 金 額
電気電子工学科	教授	小原 伸哉	数値気象情報を用いた太陽光発電を伴うSOFC-PEFC複合マイクログリッドの運用最適化アルゴリズム	1,742千円

(財) スズキ財団 平成21年度科学技術研究助成 交付内定

(研究協力課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交 付 金 額
機器分析センター	講師	大津 直史	レーザー照射を利用した鉄鋼材料表面窒化技術の開発	1,000千円

事務局職員等職階別スキルアップ研修を実施

(企画広報課)

12月2日(水)、3日(木)、11日(金)の日程で、事務局職員等職階別スキルアップ研修を実施しました。

研修は事務局職員に技術部職員を加え、課長級、係長級、係員級の職階別に、石川事務局長による国立大学法人を取り巻く諸問題や職員に期待することなどの講話、外部講師による実習を交えた問題解決手法に係る講義、職場環境向上を目指したパワーハラスメント防止に関するDVD視聴などをプログラムとして

実施されました。

最終日の12月11日(金)には、文部科学省大臣官房政策評価審議官である辰野裕一氏により「改革の時代の大学」と題して特別講演が実施されました。この講演には研修受講者に加え、帯広畜産大学、旭川工業高等専門学校、また、包括連携協定締結校の日本赤十字北海道看護大学と東京農業大学からの参加もあり、辰野審議官のユーモアと示唆に富む内容の講演に熱心に耳を傾けていました。



↑ 辰野審議官の講演の様子

平成 21 年度第 2 回地域共同研究センター産学官連携推進員・

協力員合同会議を雄武町で開催

(研究協力課)

12月4日(金)に、今年度第2回目となる地域共同研究センター産学官連携推進員・協力員合同会議を雄武町地域交流センターで開催しました。

本会議は、北海道、特にオホーツク地域の周辺自治体・公設試験場・包括連携協定締結機関等の関連部署担当者に「産学官連携推進員・協力員」を委嘱し、産学官連携に関する事項の協議・情報交換会を実施し、地域経済の振興を目的に活動を続けています。第2回目となる本会議には、自治体から4名、金融機関から1名、公的機関から10名、周辺大学か

ら1名、本学関係者4名の総勢20名の出席がありました。

事前に実施したアンケート調査(イベント、特産品等)に基づき各自治体から発言願い、さらに合同会議への要望や提案事項に関して協議しました。大学からは研究シーズや知的財産に関する情報提供を行い、具体的な地域振興策の一つとして、アンテナショップへの出展に関して今後検討していきたいとの提案が出されました。今後、第3回目を2月に本学で開催する予定です。



ウィンター・サイエンスキャンプ

「雪と氷の世界を体験しよう」を実施

(学生支援課)

1月5日(火)から7日(木)、「雪と氷の世界を体験しよう～雪結晶から地球環境まで～」をテーマに、ウィンター・サイエンスキャンプを実施しました。本事業は独立行政法人科学技術振興機構の主催により実施されるもので、本学での開催は平成16年度から6回目となります。

今回も、屈斜路研修所を主会場とし、講義・フィールドワーク・研究発表と内容盛り沢山のキャンプとなりました。

講義では、高橋修平教授による「雪と氷の世界」、原田康浩准教授による「寒冷地の光学現象」、館山一孝助教による「北極海の海氷変動」、知的財産本部・岩崎氏による「ポンポン山の不思議」などの専門的な話題が紹介され、参加者たちは真剣に耳を傾けていました。

フィールドワークでは、吹雪のため予定していた摩周湖での観測を中止するというアクシデ

ントもありましたが、参加者たちは吹雪も何のそのと、北海道ならではの天候や美しい雪景色などを満喫していたようです。中でも、ポンポン山への登山では、スノーシューを履いて雪をかきわけながら進み、ふかふかの新雪に足をとられ苦戦しつつも歓声を上げて楽しんでいました。ポンポン山へ到着すると、それまでとは全く違う積雪のない風景に驚き、赤外カメラによる温度観測で周囲との温度の違いに興味深げに調べていました。

今回は天候に恵まれないキャンプではありましたが、北海道の冬の厳しさを存分に体感できる充実した3日間となりました。また、参加者も積極的に学び、互いの交流を深めて刺激し合う様子が見られました。空港での別れ際には感極まって涙を見せる参加者もあり、忘れることのできない貴重な経験となったのではないでしょうか。



↑ 硫黄山での赤外カメラによる温度観測



↑ 新雪を踏み分けながらのポンポン山登山

↓ 普段は雪のない第2ポンポン山もこの日ばかりは真っ白



知的財産セミナーを開催

(研究協力課)

1月22日(金)、総合研究棟多目的講義室において平成21年度産学官連携戦略展開事業(戦略展開プログラム)知的財産セミナーを開催しました。

今回のセミナーでは「知っておきたい著作権」と題し、産学官連携活動を円滑に進める上で必要となる著作権の基本的な知識から実際の事例まで幅広い内容をご講演いただきました。

鮎田学長及び室蘭工業大学佐藤学長の挨拶の後、基調講演1は、文部科学省研究振興局研究環境・産業連携課技術移転推進室室長代理 渡辺 栄二氏より、「産学官連携の現状と今後の展望」と題してご講演いただきました。続いて、青木副学長より「2年目を迎えた連携ー北見工業大学・室蘭工業大学連携知財本部の歩みー」と題した事業成果報告の後、基調講演2では、文化庁長官官房著作権課課長補佐 壹貫田 剛史氏より、「著作権とは

何かー著作権と向き合うためにー」と題して、著作権の概要や著作物の利用についてご講演いただきました。

さらに、特別講演として、芝綜合法律事務所顧問弁護士・弁理士 大宮法科大学院大学教授 牧野 和夫氏より「身近な著作物の取扱いー著作権法に照らした落とし穴ー」と題して、問題となりやすい事例や近年の判決を交えて著作権の基本についてご講演いただきました。

今回のセミナーには、本学教職員・学生をはじめ北見市内及び網走管内の官公庁、企業、大学、市民など幅広い層から87名が参加し、テレビ会議システムを用いた室蘭会場にて20名が参加し、合計107名が著作権への理解を深めました。



↑ 会場の様子



↑ 熱心に講演される牧野氏

薬物乱用防止講演会を実施

(学生支援課)

1月26日(火)、C122 講義室にて薬物乱用防止講演会を実施しました。

これは、近年、大学生による大麻所持や芸能人の薬物使用等、薬物に関する報道が相次ぐ中、学生に薬物に関する正しい知識を身につけさせることを目的に実施されたもので、北海道北見保健所の吉田隆之氏と小野寺力夫氏を講師として招き、約 200 名の学生が参加しました。

講師からは、「依存性薬物の恐ろしさについて」と題して、薬物乱用の現状の他、薬物依存の仕組みや薬物乱用の社会的影響について

説明があり、途中、夜回り先生こと水谷修氏が出演するビデオも上映され、学生は真剣に耳を傾けていました。

最後に、薬物は一度でも手を出してしまうと気がついた時には自分の意志ではやめられなくなる依存性の高いものであり、身も心もボロボロになってしまうこと、誘われたら断る勇気を持つことなど説明があり、参加した学生からは、「改めて薬の怖さを知った」「興味本位で手を出しては絶対ダメだと思った」などの感想が寄せられ、薬物は「ダメ。ゼッタイ。」というメッセージが心に深く刻まれたようでした。



↑ 講演会の様子

個人情報保護研修を開催

(企画広報課)

1月27日(水)、総合研究棟多目的講義室において、平成21年度個人情報保護研修を開催しました。

この研修は、保有個人情報の取扱いについて理解を深め、個人情報の保護に関する意識の高揚を図るため毎年開催されているものです。

今回は、エヌ・ティ・ティ・コムウェア北海道株式会社の岩宮恒夫氏を講師にお招きし、「情報漏洩事故から考える情報セキュリティ対策」

と題し、情報セキュリティの動向、情報漏洩事件や事故の事例、個人情報保護及び情報セキュリティについて、約80分間の講演を実施しました。講演には45名の教職員が参加し、スライドを使った解りやすい説明や実演に、受講者の個人情報に対する意識も高まり、大変有意義な研修となりました。



← 講師の岩宮氏



研修会の様子 →

12 月

- 2 日 職階別スキルアップ研修
- 3 日 地域連携推進委員会、職階別スキルアップ
研修
- 4 日 地域共同研究センター産学官連携推進員・
協力員合同会議(雄武)、推薦入試(休講)
- 5 日 リーダーシップトレーニングセミナー
- 7 日 役員会
- 8 日 極地懇談会
- 9 日 教育研究評議会、発明審査委員会
- 10 日 施設環境委員会、教務委員会
- 11 日 職階別スキルアップ研修
- 14 日 役員会
- 15 日 入学試験実施委員会、入学者選抜委員会
- 16 日 教授会、研究科委員会、
推薦入試合格発表
- 18 日 経営協議会、学長選考会議、役員会
就職ガイダンス
- 21 日 冬季休業日(～1月4日)
- 24 日 情報システム運営委員会

1 月

- 5 日 集中講義期間(～8日)
ウインター・サイエンスキャンプ(～7日)
- 8 日 発明審査委員会、教務委員会
- 12 日 役員会
- 13 日 研究科委員会
- 14 日 工農教育プログラム第4期開校式・
オープニングセミナー
- 15 日 休講
- 16 日 大学入試センター試験(～17日)
- 18 日 役員会
- 20 日 教育研究評議会
- 21 日 月曜日授業振替
就職ガイダンス(～22日)
- 22 日 知的財産セミナー
- 27 日 個人情報保護研修
- 29 日 技術士養成支援講座 開講式

